

カナダの森林と樹木

- 広葉樹(2) -

北海道大学農学部 深 沢 和 三

前回到ひきつづき広葉樹の紹介をしていただいた。公園などでリスの住みつけるクルミ類、運動用具材としてなじみのトネリコ類、北海道にも多いエルム類のほか、花も楽しむことのできる樹木などが取り上げられている。

リスの楽園 - クルミ科の樹木.....

クルミ・ヒッコリー類：身近にリスのいる生活は欧米では普通である。モントリオールでも大学構内や公園だけでなく、ダウンタウンに近い私のアパート街にも沢山住みついて、しきりに道路を横断するので車も注意が必要である。クルミ科の樹木が多いためであろう。これらの樹の繁殖はまたリスの果実運搬と、そのしまい忘れが一役買っているに違いない。クルミは複葉の数が多く、果実の皮が熟しても割れず、枝の髓が多室である。ヒッコリーは複葉で先端の葉が最大であり、果皮は熟したときに割れ、枝の髓は多室でない。大部分はアメリカ東部が故郷で、カナダの落葉広葉樹帯及び五大湖ローレンス地帯を北限としている。

ブラックウォルナット（ニグラグルミ）はオンタリオ南部のみ、**バターナッツ**（シネリアグルミ）はこれより広くアカディアン地帯まで生育する。家具その他装飾材で貴重なのは前者であるが、カナダでは材はほとんど産出しないと見てよい。

ヒッコリーはカナダに6種分布しているが、**シャグバークヒッコリー**（ヒッコリー又はオバータヒッコリー）と**ビターナットヒッコリー**（コルデイフォルムヒッコリー）の2種が、セントローレンス河沿いに普通に見られるが、他はオンタリオ南のごく一部に限られる。シャグバークヒッコリーは、樹皮が鱗状に毛羽立ってめくれるところから、またビターナットは果実が苦いところから名前がつけられている。後者の方がカナダでは一般

的で多く見られる。しかし材の方は前者より軟かく劣っている。ビターナットヒッコリーは、ハム、ベーコンの薫製に用いると独特の香りをつける。ヒッコリー薫製として売られている。

運動用具材とは限らない.....

トネリコ類：アッシュはカナダに4種ある。何故か全部色と関連した名である。**ホワイトアッシュ**（アメリカトネリコ）、**レッドアッシュ**（ペンシルベニアトネリコ）、**ブルーアッシュ**（コードラングラータトネリコ）、**ブラックアッシュ**（ニグラシオジ）である。レッドアッシュはアメリカではグリーンアッシュとも呼ばれ、むしろこちらの方が名前の通りがよいのでややこしくなる。また材はブラックアッシュを除いてホワイトアッシュとして取引されている。これは日本のヤチダモとシオジの関係と似ており、ホワイトアッシュ類は肥沃地、湿地を好み生長がよい。ブラックア



レッドアッシュの並木
（モントリオール植物園）

ッシュは生長が悪くヌカメとなることが多いので、ホワイトアッシュと同じような用途、たとえば強度を要するスポーツ用材には用いられない。インディアンはこの材をぬらしてたたくと、年輪界に沿って容易にはなれることから、これでバスケットを作っている。いずれの樹種も他の広葉樹と同じく、落葉広葉樹帯、五大湖ローレンス及びアカディアン地帯を北限とする。ただレッドアッシュはマニトバ、サスカチワンの北方地帯南部にまで分布を広げている。

モントリオールの植物園は、オリンピック競技場と続いている。広大な敷地に、温室、草木、樹木、バラ、水生植物などが配置され、研究室はモントリオール大学の植物学教室と関連がある。四季それぞれに趣きがあり、1年間よく通わせてもらった。このメインストリートにレッドアッシュの大木の並木があり、このシンボルとなっていた。

北海道でもなじみの.....

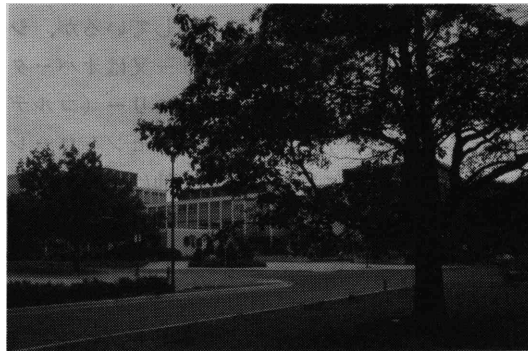
エルム：モントリオールの地図を見ると、エルムと関連する通りの名がかなりある。その1つで市の中心の小さな山、モントロワイヤルの裏側にあたる高級住宅地のエルムウッドアベニューという通りを散策した。住宅の前にエルムの大木が並び、大きく枝を張って並木というより公園の中に住宅があるようであった。一般にエルムに限らず街路樹は大木となって茂っており、定期的な刈り込みなどの手入れは行っていない。枯れて危険なとき、また市民の要請があったときのみ出動して枝はらいなどの手入れをすると聞いた。エルムも東部の樹木である。**ホワイトエルム**(アメリカニレ)が普通である。材は有用であるが、オランダエルム病のまんえんにより多くの木が枯れた。**スリッパリエルム**(フルバニレ)の材はホワイトアッシュと同じ用途で用いられ、樹皮はカヌーに使われた。インディアンはホワイトバーチが手に入らないとき、これを代用したらしい。また内皮に粘液が多く薬用にされる。もう一つ**ロックエルム**(トーマスニレ)というのがあり、名前のとおり硬く、

ショックに強い。ホワイトエルムがソフトエルムと呼ばれるのに対し、ハードエルムと呼ばれる。アイスホッケーのスティックが主にこれで作られているとは初耳であった。顕微鏡写真を見ると早材の道管が極めて小さく目立たなく、環孔材らしくみえない。カナダではオンタリオの落葉広葉樹帯に多く、ホワイトエルムより分布が狭い。

シナノキ：リンデンは英独共通語であり覚え易い。バスウッド、ライムという英名よりこれで通ってしまった。モントリオールのマウントロワイヤル公園を歩くと、大きな葉と小さな葉のシナノキがあるのに気付く。大きな葉のものが、**バスウッド**(アメリカジナ)であり、小さなものが輸入品種である。アメリカの東南部にはホワイトバスウッドなど3種のものがある。バスウッド(アメリカバスウッドとも言う)はアメリカ中央から東部、カナダ南部にかけて生育している。インディアンはアイヌと同じく内皮の繊維からロープや織物を作った。ケベック人形などの木彫品には使われていなかった。

花が目立つ.....

ハナミズキ：**フラワーリングドッグウッド**(アメリカヤマボウシ)の花を見たいと思っていた。カナダではオンタリオ南部の暖い土地にのみ生育する。5月上旬、車でカナダ国境を越え、シラキユースを通過してワシントンDCまで旅行した。途



ウェスタンドッグウッドの2回目の開花
(プリティッシュ・コロンビア大学構内~ハンクーパー)



シダレカンバ(右)とアービュタス(中央)
(ブッチャード庭園~ビクトリア市郊外)

中ペンシルベニアの牧野でこの花が満開であり、ワシントンではもう散っていた。葉がでる前に群がって咲く様子は、日本のサクラに似ているが、花が大きいだけに豪華な感じがして見事であった。8月下旬、帰国の途中カナディアンロッキーからBC州に車に入った。この時ドッグウッドがBC州の州花であることを知った。これは東部のものと品種が異なり、**ウエスタン**または**パシフィックドッグウッド**と呼ばれている。沿岸地帯に生育するが、面白いことに、時として8~9月に2度目の開花を持つ。バンクーバーのUBCのキャンパスの中央に大きな樹があり2度目の花を着けていた。春のように群がって咲いてはいないが、それでも十分楽しませるものであった。

ユリノキ：アメリカの木材の文献を見ると、イエローポプラの名がひんぴんと出てくる。これはポプルスに属するものでなく、マグノリア(モクレン科)に属するものであり、**チューリップツリー**(ユリノキ、ハンテンボク)とも言う。カナダではオンタリオ南部に局限されるが、アメリカ東部に広く分布し、主として家具などに用いられる有用樹種である。4裂の特異な形の葉、チューリップに似た花でよく目立つが、何よりも大木となり、しかも樹幹通直で枝下が非常に高いのに驚いた。純林となっているかどうかはわからないが、かなりの蓄積があるのだろう。アメリカで普通マグノリアと呼んでいるのはキューカンバーツリー(アクミナータコブシ)である。

アービュタス(マドローナ)：あまり有用な樹ではないが、カナダ唯一の常緑広葉樹であるアービュタスについて記してみよう。バンクーバー島でビクトリアから北上したとき、赤色の平滑で、薄く剥げやすい樹皮を持つ常緑樹がよく目立った。ここを北限にしてカリフォルニア南部にまで生育するが、これを見ると北大の和歌山演習林を思い出し、あらためて沿岸地帯は暖いと感じた。赤い1cmぐらいのいちごに似た実がなりインディアンは食用にした。また花は蜜が多いと言う。

(以下次号につづく)